

事務事業評価シート

計画対象年度	令和元年度									
事務事業名	道路維持管理事業（政策）						事業類型	補助事業		
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令 道路法		
			08	02	01	03	政策経費			
総合計画体系	3. 安全で快適に暮らせるまちづくり						総合計画対象	対象		
	(2) 都市基盤の整備						市民協働	行政主体		
	1 道路・交通						担当課係等	道路課		
⑤生活道路の整備						管理担当				
事業期間	期間限定複数年度（平成27年度～令和5年度）									

現状把握の部 (D0)

【目的】 限られた予算の中、これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換することで橋梁の長寿命化を図り、予算の平準化と維持管理コストの縮減を行う。 これにより、次の世代に大きな負担をかけることなく、道路交通の安全性と信頼性を将来にわたり確保することを目的とする。	【関連事業】 無
【期待される効果】 次の世代に大きな負担をかけることなく、道路交通の安全性と信頼性を将来にわたり確保することができる。	【対象者】 市道及び橋梁利用者
【全体概要】 本事業は、かすみがうら市橋梁長寿命化修繕計画に基づき市が管理する道路橋梁の適切な維持管理を行う。	【特記事項】 ○5年に1回の道路橋梁定期点検義務により、平成25年度から平成30年度の5年間で一通り点検が完了したことから、平成25年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行い今後も計画的に橋梁点検及び橋梁修繕等を行っていく。 ※防災安全交付金（補助率55%）を活用する。
【平成30年度 事業内容】 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、設計を実施する。 道路橋梁法令定期点検実施。 【平成25年度～平成30年度の5年間で点検。】 道路橋梁補修工事実施。	【令和元年度 事業内容】 橋梁長寿命化修繕計画(H25)に基づき、補修設計及び補修工事を実施する。 平成25年度に策定された橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行う。
	【令和2年度 事業内容】 令和元年度に見直しした橋梁長寿命化修繕計画に基づき、補修設計及び補修工事を実施する。

■事業費

		H30年度	R01年度	R02年度						
財源	国庫支出金	75,328	60,128	105,270						
	県支出金	0	0	0						
	一般財源・その他	64,422	55,700	89,130						
歳入計（千円）		139,750	115,800	194,400						
歳出	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）						
	04 共済費	S	%S	S						
	13 委託料	101,853	83,507	164,400						
	15 工事請負費	37,897	32,366	30,000						
内訳	歳出計（千円）（A）	139,750	115,800	194,400						
	（参考）	当初予算額	164,000	当初予算額	99,100	伸び率(%)	決	67.77	予	96.06
	職員人工数	1.20	2.00	2.00						
	職員人件費（B）	9,021	15,504	15,608						
総事業費（A）＋（B）		148,771	131,304	210,008						

■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動指標	橋梁補修計画実行件数	橋	目標	3.00	3.00	3.00
	長寿命化修繕計画に基づいた橋梁補修設計・工事件数		実績	3.00	3.00	0.00
		橋	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	補修計画実施件数	橋	目標	3.00	3.00	3.00
	補修設計・工事実施件数		実績	3.00	3.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 橋梁を適切に維持管理するものであり、当市の施設管理の政策体系から目的との整合性が結びついている。 第3編>第3章>基本目標3-2>1>⑤
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 計画的かつ予防保全的に点検、補修を実施することで、道路の安全及び維持管理費を平準かつ縮減する。
有効性評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 現状で最善を見込んでいると考えるが、改善に余地がないといえるものというものでもない。情報収集と検証を通じての改善をすすめるものである。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 補修時期が遅延することで、橋梁が損壊すれば、安全性及び通行が不可になった際の経済的損失規模は大きい。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 橋梁の点検、修繕については、特殊性があり、また安全性を求めるものであり、他事業との連携は難しい。
効率性評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 法令により義務付けられた点検、点検での危険性に基づいた修繕計画であるため、法令違反及び安全性に問題が出る削減余地はない。
公平性評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 事業対象の橋梁は公共施設であり、すべての利用者が等しく受益するものであるため、市内の平準化した上で公平・公正なものである。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	事業を改善させるための情報収集、検証を通じて柔軟な見直しを含めた事業実施をすすめていく。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） 記入者：羽成英明 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 改革・改善の具体的な内容（改革案・実行計画） 橋梁長寿命化修繕計画に基づき計画的な修繕を実施すると共に、橋梁の保守点検の結果を踏まえ、必要性・緊急性の高い箇所から優先して事業校正する。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） 記入者：石塚洋二 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 長寿命化計画の見直しを図りつつ補助事業を充分活用し、併せて費用対効果も視野に入れた事業の遂行を図りたい。		

事務事業評価シート

計画対象年度	令和元年度							
事務事業名	市道整備事業（政策）						事業類型	補助事業
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令 道路法
			08	02	02	05	政策経費	
総合計画体系	3. 安全で快適に暮らせるまちづくり						総合計画対象	対象
	(2) 都市基盤の整備						市民協働	行政主体
	1 道路・交通						担当課係等	道路課
④幹線道路の整備						工務担当・用地担当		
事業期間	単年度のみ							

現状把握の部 (D0)

【目的】 計画路線や行政区要望を基に、道路改良工事、舗装補修工事、排水整備工事を実施し、市道利用者の安全性の確保と利便性の向上を図ります。	【関連事業】 道路整備事務事業 道整備交付金事業（政策）
【期待される効果】 車両通行及び歩行者等の安全性の確保及び利便性の向上。	【対象者】 市道利用者
【全体概要】 行政区長要望及び計画路線整備または通学路整備等を主に 行っている。要望路線、計画路線区域については、用地取得により早急に整備する必要がある。また、通学路については各関係機関と合同点検等を実施し、安心して安全な整備が早急に必要である。舗装補修工事については、幹線道路を継続的に補修します。排水整備工事については、冠水・滞水箇所を整備をします。	【特記事項】 ○防災安全交付金事業（補助率50%・55%）
【平成30年度 事業内容】	【令和元年度 事業内容】
<ul style="list-style-type: none"> ・道路改良工事 ・舗装新設工事 ・舗装補修工事 ・排水整備工事 ・用地買収、補償 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路改良工事 ・舗装補修工事 ・排水整備工事 ・用地買収、補償 ・石岡・かすみがうら広域幹線道路詳細設計業務委託
【令和2年度 事業内容】	

■事業費

		H30年度	R01年度	R02年度
財源	国庫支出金	27,767	34,649	0
	県支出金	0	0	0
	一般財源・その他	144,687	232,616	247,633
歳入計（千円）		172,454	267,265	247,633
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	01 報酬	884	884	2,181
	03 職員手当等	0	0	308
	04 共済費	0	0	435
	08 報償費	0	40	0
	09 旅費	216	217	86
	11 需用費	108	209	109
	13 委託料	12,143	40,570	70,550
	15 工事請負費	151,377	212,474	143,000
	16 原材料費	238	275	275
	17 公有財産購入費	3,192	9,283	21,309
	22 補償、補填及び賠償金	4,296	3,315	9,380
	歳出計（千円）（A）		172,454	267,265
（参考）		当初予算額	268,027	当初予算額
			278,508	伸び率(%) 決 -7.35 予 -11.0
職員人工数		3.40	3.40	3.40
職員人件費（B）		25,558	26,357	26,534
総事業費（A）＋（B）		198,012	293,622	274,167

■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動指標	整備延長	m	目標	2,633.00	2,271.00	2,000.00
	工事施工延長(改良・舗装補修・排水整備)		実績	2,732.80	2,424.20	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	整備率	%	目標	100.00	100.00	100.00
	整備延長/計画延長		実績	103.79	106.74	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 生活道路整備を目的としており、市の施策と合致している。 第3編>第3章>基本目標3-2>1>④
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 市民の生活と直結している市道整備（改良・舗装補修・排水整備）を実施しているため、妥当である。
有効性評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 最小限の経費で最大限の効果を発揮するよう効率的な工法を検討した上で実施しており、成果の向上余地はない。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 生活道路における狭隘箇所の拡幅、傷んだ道路の補修並びに雨天時における道路の冠水を解消するのが目的であり、休止することはできない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 道路法に基づき、安全で快適な道路環境を整備する事業のため、都市計画事業、土地改良、農道整備と統廃合・連携ができる。
効率性評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 最小限の経費で最大限の効果を発揮する工法を検討した上で実施しているため事業費削減の余地はない。工事担当者は、他事業や複数の現場を掛け持ちしながら他事業にも携わっており、事業の削減も望めないことから人件費の削減余地はない。
公平性評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 生活道路や幹線道路に係る整備を市内平準化を実施しており、公平・公正である。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	限られた予算の中でより多くの市道整備を実施するため、補助要件に該当する場合は積極的に補助金を活用する。また、舗装や道路構造物の経年劣化が増加しており、予防的修繕による長寿命化を基本とした維持・修繕に力を入れるべきである。
1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） 記入者：羽成英明 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 幹線道路の整備は、補助要件に該当するように積極的に補助を採用する。また、限られた予算の中で行政区長要望の多い生活道路の維持・修繕を市内平準化の緊急性を考えながら公平に行い、さらに道路冠水対策においては関係部署と連携を図り対応する。		
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） 記入者：石塚洋二 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 補助事業の模索検討を行うと共に市内全体の平準化及び優先箇所など含めて計画路線を選定されたい。		